「遊びの大切さ」

学校長　笠　原　　究

私は中休みと昼休みに校舎内やグラウンドをぶらぶらして，子供たちの遊ぶ様子を見ています。時には仲間に入れてもらって鬼ごっこ，鉄棒，サッカーなどで一緒に遊ぶこともあります。9月は教育実習の学生たちが，子供と一緒になって遊ぶ姿をよく見掛けました。子供たちはそれぞれ思い思いの遊びに興じています。短い時間の中で夢中になって遊ぶ子供の姿を見ると，こちらまで楽しい気持ちになってきます。

今年度の附小の重点目標は「つくりだす子」ですが，この「つくりだす」ことと遊びには非常に深い関係があると思っています。子供たちは遊びの中で，他者と触れ合い，交渉し，独自のルールを作っていきます。時にうまくいかなくとも，子供なりの主張や妥協を重ねながら，相手と折り合える点を探っていきます。この経験こそが相手のことを考える「想像力」を鍛え，新たなものを生み出していく「創造力」につながっていきます。

人間は全くの無から新たなものを創造することはできません。様々な分野における先人のなしたことを学び，それを組み合わせたり，組み替えたり，ちょっと足したり，時には引いたりして新たなものを創っていくのです。新たな着想を得るうえで大切なのが遊び心です。遊び心は自由な遊びの中から生まれます。遊びを楽しくするために，子供たちはいろいろな工夫をします。うまくいくこともあれば，そうでないこともあります。この繰り返しこそが，自由な発想を生んでいくのです。

新たな着想は，何か新しいものを作り出してやろうと必死になっているときにはなかなか訪れてくれないものです。ここに創造の難しさがあります。むしろ全く関係のないことをしていたり，ぼーっとしていたりするときにやって来ることがよくあります。私自身のことで言えば，机に向かっているときよりも，ジョギングをしていたり，サウナに入っていたりするときに，新しい研究のアイディアが生まれます。前号（7月1日発行）でも述べましたが，インスピレーションとは神の息が吹き込まれること，という意味です。それは心を自由に遊ばせているときに訪れるものなのかもしれません。

昔はどこにでも子供たちの自然な集団があって，その中で子供たちは自由に遊んでいました。学校帰りにはたっぷりと道草を楽しみました。その中で想像力と創造力を育んでいきました。

今の子供たちは，少子化によって大人の作った集団の中で習い事等をすることが多くなっています。そうした習い事で身に付くこともたくさんありますが，自由な発想のためにはやはり自由な遊びの時間が必要です。学校の休み時間にはたっぷりと遊んでほしいと思っていますし，学校の外にも，そうした遊びの時間があってほしいと願っています。